

水彩画教室 「昭和の国立駅／国鉄中央線」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

昭和中期の国立駅前です。現在は整備された広い駅前広場が広がっていますが、当時はまだ未舗装の部分も多く、雨が降ればぬかるみができるような素朴な風景が残っていました。それでも赤い屋根の駅舎は街の象徴として人々を迎え、学生や買い物客が行き交う活気に満ちていました。国立という地名は、国分寺と立川の間に新駅が設けられたことから、両地名の一字ずつを取って名付けられたものです。この駅を中心に放射状の道路や並木が計画的に整備され、一橋大学をはじめとする学校が集まる学園都市の核となりました。駅前のけやきの緑越しに見える駅舎を眺めていると、昭和の穏やかな時間の流れが感じられます。華やかさよりも落ち着きと知性を大切に育てられてきた国立の街の原風景を、思い浮かべながら筆を進めました。



これが完成した絵です



1、ケヤきの緑は リーフグリーン→サップグリーン→シャドウグリーンの順に重ねます



2、主題の赤屋根は 特に「つま」の角度をよく考えて描きます



3、屋根の「接合部」が一番難しいです



4、駅名板だけを詳細に描くことはしません 駅名も省略で良いです



5、やや古風なタクシー タイヤと床下は暗くします



6、人物群はあえてシルエットにしました もう少し丁寧に描いて 時代感を出してもよかったです